

「de mano(じまあの)」は、牛豚肉を加工する「まあの」が発行するミニコミです。生産地の様子や生産者の声、「まあの」からのお知らせや小村の個人的な関心事などを掲載しています。
 「mano」はエスペラント語で「手」の意味です。生産と消費が「手」つなぐ肉流通を作り、「手」作業主体の職人の技術で肉を加工するという意を込めています。

まあのから
de mano
 エスペラント語で「mano」は「手」、
 「de」は「～から」という前置詞です。

発行:まあの 【火曜定休】
 兵庫県尼崎市戸ノ内町5丁目8-6
 ☎ 06-6495-2546
 ☎ 06-6495-2900
 ✉ mano0298@snow.plala.or.jp
 HP <https://www.e-sora.net/mano/>

皆さんの声を聞きました

第33回ミートミーティング



まあのからさんさんファームへの牛肉加工事業の引継で内容が変わることも多く、皆さん強い関心を持たれて、申込していなかった人も含めて25名の参加がありました。福沢さんも最後の挨拶のため、わざわざ来て下さいました。

話し合いの内容については、生産者の青木さんとさんさんファームの原さんから、会議の感想と皆さんへのメッセージをいただいていますので、右に掲載します。

改めて「和牛」と「F1」(アルプス牛)を比較すると…

和牛 青木さんは和牛の一貫経営が生産の柱です。牛舎には母牛がおり、続々仔牛が生まれています。その中から肉牛に育ててもらえば、100%大鹿産になりモネンシン問題ありません。一方価格はF1より1割以上上がります。また、肉質もサシが入りやすく、シマリ、キメの細かさなど、総合的な評価はF1よりぐんと高いです。お肉の売れ行きを見て、青木さんとして市場出荷という選択が可能です。

F1 仔牛をよそから仕入れるので、トレスピリティやモネンシンの問題は残ります。価格は和牛よりは安いですが、酪農家の減少でF1仔牛も入手が難しくなり、価格も上がる可能性が強いです。F1の市場評価は私たちのルートと大きな差があるため和牛のような調整ができません。仕入れた牛は必ず私たちの流通で売っていかねばなりません。

今回とりあえずF1で続けていくことになって、3月13日青木さんにF1仔牛を2頭導入してもらいました。この牛がお肉になるのは来年の7月頃なので、まあの終業とつながり、さんさんファームで初めて加工してもらうことになります。以降も続けていくのであれば、その都度売れ行きの判断でF1仔牛の仕入れも続きます。

F1牛か、和牛か？

青木 連

日頃からアルプス牛のご利用ありがとうございます。2月28日にミートミーティングが行われて、まあのからさんさんファームへの事業承継について話がありました。そこで大半の時間を要して議論したのは、これからもF1牛で行くのか、和牛で行くのか？和牛の案は、万が一牛が売れ残り、皆さんのもとへ出荷できない事態を想定。F1牛に比べて和牛であれば一般市場に出しても高価格という生産側の都合でした。結果、流通を続けたい、そしてF1牛を、の意見が多かった。しかし時間が押し迫り、いろいろな事情から「和牛」の声が最後に上がり、そのまま会は終わりました。



突然の話で驚いた方もいたと思います。いろいろと準備が至らず、生産・流通の具体的な情報も足りず、各グループで話をする時間も設けず、ミートミーティングで今後の予定を決めようとしていたこと、とても乱暴でした。本当に申し訳ありませんでした。そして貴重なご意見・お時間をありがとうございました。

突然の話で驚いた方もいたと思います。いろいろと準備が至らず、生産・流通の具体的な情報も足りず、各グループで話をする時間も設けず、ミートミーティングで今後の予定を決めようとしていたこと、とても乱暴でした。本当に申し訳ありませんでした。そして貴重なご意見・お時間をありがとうございました。

総論をまとめることは難しい。しかしミーティングの内容を受けて、まあの・さんさんファームと話

をして「F1 牛」で続けていこうということになりました。隔月の出荷（現在の半分）にした場合、常にお肉が買える状態はなくなるかもしれません。この案もミーティングで十分議論できていませんが、消費が減っているので「持続できるカタチ」にご理解をお願いします。

一般的に、牛飼いが食べてくれる人たちと会えるのは特別で、とてもやりがいがあり、幸せなことです。今まで通りではなくなってしまうかもしれませんが、今後ともアルプス牛をどうかよろしく願いいたします。

不安が少し減りました

原 実

初めてミートミーティングに参加しました。各団体の現状と熱い思いが伝わってきました。やはり会員の減少と高齢化の現状は否めないと感じました。しかし牛肉に対する思いと継続してほしいという要望が大多数と感じ、自分自身の不安が少し減ったかなと思います。



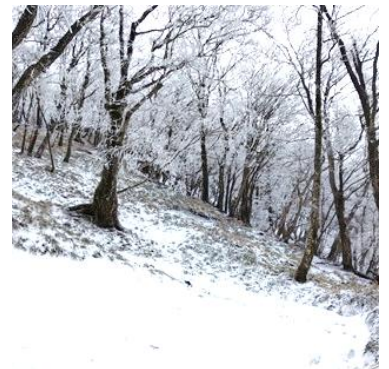
山の記録

雨乞岳(滋賀県東近江市) 3月5日

1月の天狗堂と同じ「鈴鹿10座」です。アプローチが長いので早めに家を出て、岩ヶ谷林道起点の登山口に着き、6時半スタートです。1台先行車が停まっています。緩やかな坂道を登っていきます。ツルベ谷出合でジャケットを脱いでいると、ギーギーというような奇妙な音が聞こえます。獣が吠えているのかとよく聞くと、高い木同士がこすれているのでした。シデなどの大木が続きます。川を渡るところが数か所あり、通行止めになっている橋の周辺はとて渡渉できるようなところはなく、やむなく橋をそろそろと



2026年4月 April
渡りました。渡渉も前日の雨で水かさが多く、慎重に飛び石しました。向山鉦山跡の近くで下りてくる人と会いました。「あの、ホンダの方ですか?」「はい、今日は早めに出たけど、この先道が厳しいので戻ります」ストックなど装備は持ってはるようでしたが、慎重に無理をしない判断でしょう。もう少し登っていくと、積雪は少ないですが風がめったやたら強く、坂道が凍っています。ロープを頼りに恐る恐る進んで、何とか杉峠です。ここは吹きさらしで一気に手が凍ります。霧氷が見事ですが、風景を楽しむゆとりはありません。ここから雨乞岳までは急坂でほとんど凍っていきそうです。先ほどの人と同じく山頂は断念します。



下っていくと彼に追いつきました。それからずっと話しながら車まで戻りました。「おいつつですか?」「もう後期高齢者です」「じゃあ一緒ですね」。昔から山が好きで、年金生活になってからは毎日のように登ってるそうです。「一人が多いけど、時々グループで登ったり、夏は北アルプスも行くよ」「バスですか?」「いやこの車で登山口まで行って、車中泊」。私以上に元気です。

ニクヤノツブヤキ

- ◇ まあのへの通勤途中でよく出会う人がいます。こちらは車でその人は徒歩(時々コートでも走り)で、私たちは“ランニングマン”と呼んでいます。「真面目そうやね」「独り身かな?」などと噂しています。(幸治)
- ◇ 先日整形外科で身長を測る機会があり、若い頃は162cmあったはずなのに今は158cm。悲しいかな背骨が前後左右に湾曲してしまっているせいでしょ。(幸子)